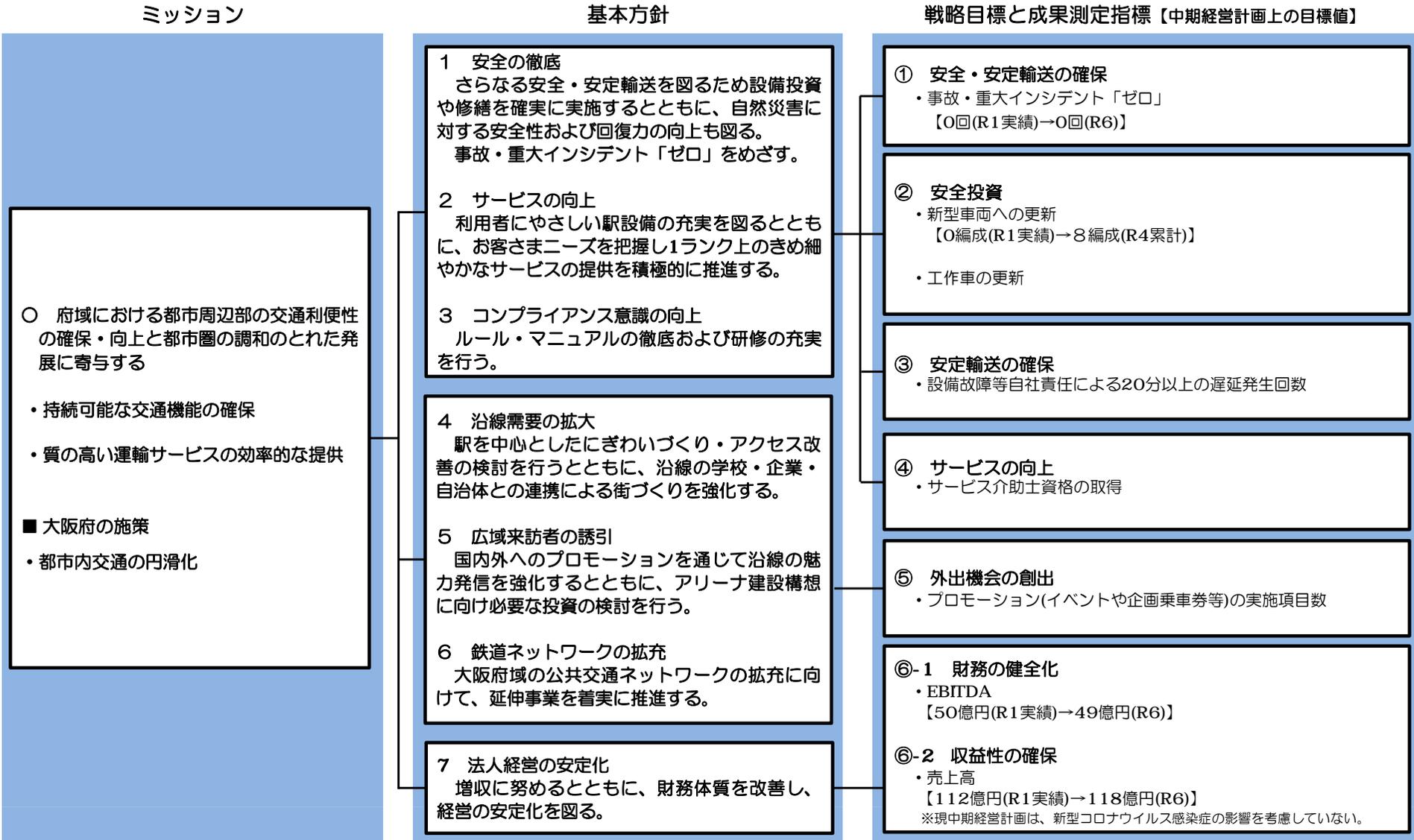


法人名	大阪モルール株式会社
作成 (所管課)	都市整備部交通戦略室鉄道推進課

○ 経営目標設定の考え方



法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

○ 令和5年度の経営目標達成状況及び令和6年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 [見込値]	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R2～R6)		R6目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R6 目標値	最終年度 目標値	
① 安全・安定輸送の確保	事故・重大インシデント「ゼロ」		件	30	0	0	0	0	30	0	0	・鉄道事業者は安全・安定輸送が最大の使命である。 ・安全投資や維持修繕を確実に実施することにより、安全・安定輸送を確保する。 ・常に安全教育・訓練を実施し人材育成を行うことにより、安全マネジメント体制を強化する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										戦略目標達成のための活動事項		
最重要とする理由、 経営上の位置付け	大阪モノレールは、「安全な鉄道」として、お客さまから信頼される公共交通機関を目指すことが使命であることから、事故・重大インシデント「ゼロ」を最重要目標とした。 ※事故:軌道事故等報告規則第一条一項に定められた事象をいい、運転事故等報告書(第一号様式)により近畿運輸局へ報告したもの ※重大インシデント:軌道事故等報告規則第二条に定められた事象のうち、運輸安全委員会設置法施行規則第二条に掲げた事項(運輸安全委員会の調査対象となるもの)										1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 ・新型車両への更新 2編成更新(5月、7月) ・工作車の更新 1両更新(2月) ②施設の更新・改良 ・光ケーブルの敷設 車両基地～南茨木、豊川～彩都西間 ・防犯カメラ 駅防犯カメラの更新、車内防犯カメラの設置	
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、R2年度～R6年度の運輸収入の実績見込みは、中期経営計画と比較し、約104億円減少する。 ・このため、中期経営計画で策定した設備投資の内容や時期を毎年度見直しながら、一部サービステータスは見送ったものの、安全投資は着実に実施した。R6年度も引き続き着実に実施する。 2. 実践的な安全教育・訓練 ・R5年度は、非常時合同訓練、テロ対応訓練、情報伝達訓練及び過去事例に基づくディスカッション研修など、実践的な訓練・教育を行った。 ・R6年度も、引き続き上記訓練・教育を実施するとともに、地震発生時の対応力をさらに強化する。										2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 大規模災害・事故、テロ発生時などにおけるお客さま救出(避難誘導)等の社員一人ひとりの対応力強化を図るため、大阪府・消防・警察などと合同で、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(1月)を実施する。 ②組織の情報連携強化・地震発生時の対応力強化 大規模災害発生時における業務運営上の対応可能者把握のための社員の安否確認をはじめ、大規模災害・事故、テロ発生時などに於ける情報連携を強化するため、津波防災の日訓練(11月)、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(1月)を実施する。 さらに、情報伝達訓練(対策本部運営訓練)(12月)を実施し、被災度推定システムの運用確認を行う。 ③過去事例に基づくディスカッション研修 事故、トラブルの未然防止を図るため、社内外で発生した過去事例を題材に、主に気付きをテーマとした社内研修を実施する。	
活動方針	1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 ②施設の更新・改良 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 ②組織の情報連携強化・地震発生時の対応力強化 ③過去事例に基づくディスカッション研修 ④委託会社等との連携強化										④委託会社等との連携強化 点検や工事におけるトラブルの未然防止および再発防止を図るため、工事請負者と合同で技術部施工計画検討会を工事発注の都度実施する。	

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R5 ウエイト	R4 実績値	R5 目標値	R5 実績値 〔見込値〕	R6 目標値	R6 ウエイト	中期経営計画 (R2~R6)		R6目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R6 目標値	最終年度 目標値		
										年度	年度		
② 安全投資	新型車両への更新	☆	編成	-	2	-	-	2	5	0	累計8 (R4目標値)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型車両への更新は、車両故障のリスク軽減が図れることから安全投資の指標とする。 ・加えて、お客さまサービスの向上やメンテナンスの省力化を実現した新型車両への更新は、車両の快適性の面でお客さまニーズも高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画における見込値よりも売上高が減少することから、R3年度に新型車両更新計画などの投資計画時期の見直しを行った。 ・この結果、R6年度に2編成を更新する。
	工作車の更新	☆	両	-	-	-	-	1	5	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・工作車は、保守業務に係る根幹施設であることから安全投資の指標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を最優先に確実な工程管理を行い、R6年度に1台の更新を完了する。
	変電所電力設備の更新		箇所	5	-	1	1	-	-	累計1 (R4目標値)	累計1 (R4目標値)	-	-
	分岐器制御盤の更新		台	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-
③ 安定輸送の確保	設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生回数		回	10	2	3	3	3	10	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・設備故障等自社責任による遅延発生回数が少ないことは安定輸送の確保につながることから、遅延回数を指標とする。 ・20分以上は、国への報告義務の30分以上より厳しい目標値としたためである。 ・最近10年の平均値3回(小数点以下切り上げ)をR6年度の目標値とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未然防止策はもとより、事後対応力強化のため実践的な教育訓練を実施する。 ・大阪府・消防・警察と連携した非常時合同訓練 ・情報伝達(発信)訓練(対策本部運営訓練) ・輸送障害により不通区間が発生した場合の折り返し運転訓練
④ サービスの向上	サービス介助士資格の取得		人	10	20	20	25	26	10	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・多様化する利用者への対応力を強化し、ワンランク上のサービスを提供するために中期経営計画期間内(R2~R6年度)に駅係員全員のサービス介助士資格の取得をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度は資格未取得者26名の資格取得をめざす。
⑤ 外出機会の創出	プロモーションの実施項目数		項目	10	4	4	4	4	10	-	-	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R6年度に下記4項目のプロモーションを実施する。 ・観光(イベント)列車の運行 ・沿線の企業・学校・自治体との連携したイベントの開催 ・音楽&マルシェ等の開催(万博記念公園駅等でイベントを実施する) ・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売(デジタルチケットなど)

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

※1 財務の健全化	EBITDA(営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用)	億円	20	42	41	[50]	146	20	49	49	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資計画の実現と南伸に向けた投資への備えのために、営業活動で生み出されたキャッシュフローであるEBITDAを指標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安定輸送を阻むため、設備投資や修繕などを確実に実施するとともに、サービス投資においても、財務の健全性を考慮しつつ、実施時期を見直しながら進める。
※2 収益性の確保	売上高(軌道業営業収益+兼業事業営業収益)	億円	10	98	101	[106]	109	10	118	118	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安定輸送を継続し、運輸収入を確保する。 ・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、デジタルチケットの発売などにより、利用者数の増加につなげ、売上高を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位を踏まえた安全投資の実施(再掲) ・実証的な安全教育・訓練(再掲) ・外出機会の創出で挙げた4項目のプロモーションを実施する(再掲)

【凡例】

- ・☆はR6年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

C S 調査の実施概要

○令和5年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	<p>(1)委託会社 株式会社マクロミル</p> <p>(2)実施方法 インターネットモニターアンケートを保有しているアンケート調査会社（株式会社マクロミル）が、調査条件に見合った回答者を抽出して、調査を実施</p>	<p>下記の条件の中で、1年以内に大阪モノレールを利用したことがある京都府・大阪府・兵庫県在住者</p> <p>① 最寄路線が大阪モノレール本線もしくは大阪モノレール彩都線の方</p> <p>② 最寄路線が大阪モノレール本線・大阪モノレール彩都線以外の方</p>	<p>(1) 回収サンプル数 スクリーニング調査回収数：58,032サンプル 本調査回収数：4,099サンプル 本調査で最寄路線が大阪モノレール本線もしくは大阪モノレール彩都線の方：1,426サンプル 本調査で最寄路線が大阪モノレール本線・大阪モノレール彩都線以外の方：2,673サンプル</p> <p>(2) 本調査回答者・大阪モノレール利用頻度分布 ①ヘビーユーザー（週4日以上）：386サンプル(9.4%) ②ミドルユーザー（月1日～週3日）：1,049サンプル(25.6%) ③ライトユーザー（過去1年では1日～年に数日）：2,664サンプル(65.0%)</p>	<p>R6年2月14日(水)～ R6年2月21日(水)</p>

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p><実施結果> 大阪モノレールの各種満足度（※）は、「列車運行の正確さ」が最も高く46.0%、次いで「列車内の快適さ」の42.7%、「駅構内の設備・環境が整っていること」の40.6%と続いた。 一方、満足度が低い項目は、「運賃」の16.4%、次いで「終電・始発の時間」の23.3%、「異常時における情報提供」の25.1%と続いた。 (※)「とても満足/やや満足/ふつう/やや不満/とても不満/わからない」という選択肢から、「とても満足」または「やや満足」を選択した割合</p> <p><大阪モノレールの改善要望・希望> ○ダイヤ改正、運賃の変更 ■ラッシュ時は本数を増やして欲しい。 ■値段の安さを求める。本当に高いと感じる。</p> <p>○延伸 ■門真市に住んでいるので、早く延伸されるのに期待しています。</p> <p>○安全な運行 ■今後も安心安全な運行をつづけてくれること。 ■地震が起こっても安全に運行できること。地震の時、安全が不安がある。</p> <p>○イベント ■外国人を含めて大阪の魅力を伝えられるイベントなどあれば良い。 ■イベント列車で、クラシックミュージシャンのコンサートなどがあると面白いと思う。 ■大阪モノレール沿線の街に行きたくなるようなイベントを開催してほしい。 あまり使わない路線だが魅力はたくさんあると思うし知りたい。</p>	<p><大阪モノレールへの改善要望・希望を踏まえた取組> ○ダイヤ改正、運賃の変更 ■行案シーズンや沿線イベント開催に合わせた臨時列車を運行する。 ■デジタルチケットを発売・拡充する。</p> <p>○延伸 ■公共交通ネットワークの拡充に向けて、採算性を確保しつつ、延伸事業を確実に推進する。</p> <p>○安全な運行 ■新型車両への更新及び工作車の更新を行う。 ■事故、トラブルの未然防止を図るため、過去に発生した事象を題材にしたディスカッション研修を行う。 ■地震発生時の対応力強化のため、地震発生時における情報伝達訓練（対策本部運営訓練）を実施する。</p> <p>○イベント ■2025年大阪・関西万博の機運醸成の取り組みとして、引き続き、EXPO TRAIN 2025大阪モノレール号を使用した観光（イベント）列車を運行する。 ■万博記念公園駅構内で「音楽&マルシェ」や、沿線の企業、学校、自治体と連携したイベントを引き続き開催していく。 ■X（旧Twitter）、Instagram、TikTok等のSNSやYouTube、駅、モノレール車内のモニターや掲示板等、各種媒体を用いてイベント情報を発信していく。</p>

○令和6年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	未定	未定	未定	未定

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
変電所電力設備の更新	箇所	1

●変更後

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
新型車両への更新	編成	2

<p>成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度に（万博）変電所電力設備の更新が完了したため、R6年度は安全投資の指標を優先度の高い「新型車両への更新」に変更した。 ・安全・安定運行のための弛まぬ取組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。 ・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定運行確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。
---------------------------------------	---

〔2〕

●変更前

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
分岐器制御盤の更新	台	1

●変更後

R6年度の 成果測定指標	単位	R6年度の 目標値
工作車の更新	両	1

<p>成果測定指標の 変更（廃止）を 希望する理由</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・R5年度に（万博車両基地）分岐器制御盤の更新が完了したため、R6年度は安全投資の指標を優先度の高い「工作車の更新」に変更した。 ・安全・安定運行のための弛まぬ取組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。 ・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定運行確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。
---------------------------------------	--

法人名	大阪モノレール株式会社
-----	-------------

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生回数	回	3	3

〔2〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値〔見込値〕	R6年度の目標値
プロモーションの実施項目数	項目	4	4

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設備故障等自社責任による遅延発生回数については、国への報告義務の30分以上より厳しい指標としている。 ・そのうえで、R6年度は過去10年の長期的な数値をもとに、平均値3回を目標値とした。（小数点以下切り上げ） <p><参考></p> <table border="0"> <tr><td>H26年実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>H27年実績</td><td>3回</td></tr> <tr><td>H28年実績</td><td>1回</td></tr> <tr><td>H29年実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>H30年実績</td><td>3回</td></tr> <tr><td>R1年度実績</td><td>7回</td></tr> <tr><td>R2年度実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>R3年度実績</td><td>0回</td></tr> <tr><td>R4年度実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>R5年度実績</td><td>3回</td></tr> </table>	H26年実績	2回	H27年実績	3回	H28年実績	1回	H29年実績	2回	H30年実績	3回	R1年度実績	7回	R2年度実績	2回	R3年度実績	0回	R4年度実績	2回	R5年度実績	3回
H26年実績	2回																				
H27年実績	3回																				
H28年実績	1回																				
H29年実績	2回																				
H30年実績	3回																				
R1年度実績	7回																				
R2年度実績	2回																				
R3年度実績	0回																				
R4年度実績	2回																				
R5年度実績	3回																				

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、企画乗車券の発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。 ・R6年度も、引き続き下記4項目を実施する。 <p>※R5年度実績</p> <table border="0"> <tr><td>・観光（イベント）列車の運行</td><td>14回運行</td></tr> <tr><td>・沿線の企業・学校・自治体との連携によるイベント</td><td>17回開催</td></tr> <tr><td>・音楽フェス&マルシェ等の開催</td><td>34回開催</td></tr> <tr><td>・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売</td><td>8種類発売</td></tr> </table>	・観光（イベント）列車の運行	14回運行	・沿線の企業・学校・自治体との連携によるイベント	17回開催	・音楽フェス&マルシェ等の開催	34回開催	・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売	8種類発売
・観光（イベント）列車の運行	14回運行								
・沿線の企業・学校・自治体との連携によるイベント	17回開催								
・音楽フェス&マルシェ等の開催	34回開催								
・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売	8種類発売								

■ 令和5年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値
EBITDA（営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用）	億円	〔50〕	46

〔4〕

成果測定指標	単位	R5年度の実績値(見込値)	R6年度の目標値

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	<p>・R5年度は、資材の調達期間が予定より伸び、工事の実施時期がR6年度にずれ込んだことによる修繕費の減、燃料調達費等が下がったことによる動力費の減など費用の減少に加え、新型コロナウイルスの5類移行により運輸収入が増収となったことなどから、EBITDAが目標値を上回った。</p> <p>・R6年度は、労務費や資材価格の上昇を見込んだことによる修繕費増加、および動力費の法人特約による割引率の低下等により、結果的にEBITDAが減少する見込みである。</p> <p>※R5年度 修繕費 1,385百万円（見込） R6年度 修繕費 1,805百万円</p> <p>R5年度 動力費 464百万円（見込） R6年度 動力費 540百万円</p>
-----------------------------------	---

<p>マイナス （現状維持） 目標の考え方</p>	
-----------------------------------	--